

島田修三学長が「第74回中日文化賞」、 「第13回小野市詩歌文学賞」などを受賞

令和3年5月、島田修三学長が「第74回中日文化賞」を受賞しました。この賞は、学術や芸術などの分野において、文化の向上に寄与した個人や団体に贈られます。島田学長は古典文学研究に取り組みとともに、現代短歌を詠む歌人として第一線で活躍し続けています。その長年の功績が称えられての受賞となりました。

また、島田学長の歌集『秋隣小曲集』が、令和2年刊行の短歌・俳句に関する文芸作品の中で最も優れた作品として選出され、「第13回小野市詩歌文学賞」の受賞に至りました。さらに、島田学長は地域の文化振興に貢献したことも称えられ、「令和2年度地域文化功労者表彰」を受賞されました。



大学院修了生が『源氏物語 現代語訳書誌集成』を刊行

大学院文化創造研究科博士後期課程を修了し、博士（文学）学位を授与された佐藤由佳さん（54歳）が、2020年9月に『源氏物語 現代語訳書誌集成』（新典社）を刊行しました。その内容は、与謝野晶子から最新の角田光代に至る『源氏物語』現代語訳のすべての書誌調査結果です。さらに、代表的な見事に果たしました。

訳業の特質の究明及び比較、特に晶子訳の生成過程に関する検討、そして自ら行った現代語訳（御法巻）を合わせて、400字詰原稿用紙1600枚に及ぶ博士論文も書き上げました。佐藤さんは、消費生活相談員を務める社会人ですが、大学院での5年間の学修研究との両立を見事に果たしました。



卒業生2人が「第28回愛知まちなみ建築賞」を受賞

現代社会学部現代社会学科都市環境デザインコース（現・創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻）2005年度卒業生・宮本久美子さんと、同コース2007年度卒業生・植村康平さんが、「第28回愛知まちなみ建築賞」を受賞しました。この建築賞は愛知県主催の賞で、良好な景観の形成や魅力あるまちづくりに寄与する建築物・まちなみに贈られています。

宮本さんと植村さんはともに一級建築士であり、それぞれ設計事務所を設立して活躍しています。宮本さんは店舗一部住宅の「かさでらのまちビル」、植村さんは複合施設「ニシヤマナガヤ」の設計で、今回の栄えある賞に輝きました。



救急救命学専攻実習室 竣工式

2021年4月、健康医療科学部スポーツ・健康医科学科が2専攻制を導入し、救急救命学専攻が新たに誕生しました。開設に先駆けて、2020年度に長久手キャンパスの体育館1階を改修し、救急救命学専攻専用の実習室を整備しました。その竣工式が3月22日に執り行われ、関係者が参列しました。

完成した救急救命学専攻実習室には、多目的に活用できる実習フロアや講義室をはじめ、救急車内設備を忠実に再現したカットモデル、一般住宅と同じ浴室やトイレなどを設置した実習室もあります。救急の現場に近い状況でロールプレイを行い、実践的に専門知識・技術を修得することができます。



建築・インテリアデザイン専攻 優秀作品展2021

2月23日から28日までの6日間、創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻が「優秀作品展2021」を開催しました。会場となった名古屋市民ギャラリー栄には、学内で評価が高かった卒業プロジェクトの設計制作13点・論文5編と、1～3年次の実習課題の優秀作品19点が展示されました。住居や

文化交流施設、保育園などの設計図面・模型、イスやファッション小物など、学生それぞれの独創性や学修成果が光る多様な作品が並びました。

初日には建築家の藤村龍至氏をお招きし、ミニレクチャーや審査も行われました。建築や都市計画、インテリアなどの学びを深める貴重な機会になりました。



第75回 高等学校入学式

清々しい晴天の一日となった4月7日、入学式が行われました。274人の

はなりません」と呼びかけました。

新入生を迎え、学校長は「皆さんがこれから身に付けるべきことは、まず人を知ること、物事の成り立ちを知ること、問題の解決方法を考える力です。自ら学び、認識し、判断する力をこれから始まる高校生活で手に入れる努力をしなくて

はなりません」と呼びかけました。

感染防止対策のため保護者1人までと入場制限し、来賓の祝辞も省かれた入学式でしたが、式後の教員紹介では、各教員の名前が呼び上げられる毎に新入生から爽やかな拍手が送られ、教員一同これからの教育活動に一層励む決意を再確認しました。



令和2年度 中学校卒業式

3月18日に285人が中学校を卒業しました。この日は暖かい日差しのもと平和公園との境にある桜のつぼみが膨らみ、今にも咲きそうでした。今年は卒業式の会場を記念会堂にし、新型コロナウイルス感染症対策をとった座席で実施しました。

校歌演奏に始まり、卒業証書と皆勤賞の授与、校長式辞、卒業生の言葉という

簡潔な式次第でした。「中学を卒業すると社会人にさらに一歩近づき、いろんな情報の中から正確に自分で判断することが迫られます。その判断ができる人になって欲しい」と校長が式辞で述べました。卒業生は「大変な一年だったけどなんとか乗り越え、高校生になってもがんばります」と自信をもつて語ってくれました。

